



2021年10月 日本海スケトウダラ資源調査結果

道総研

令和3年11月4日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166
中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量（暫定値）は，宗谷・留萌海域で前年比 1.27，石狩・後志海域で前年比 0.98，檜山・渡島海域で前年比 0.90
- ◎利尻・礼文島周辺では尾叉長 40cm 前後の 5 歳魚（2016 年級）主体
- ◎積丹沖，岩内沖，檜山海域では尾叉長 40cm 前後の 5 歳魚（2016 年級）と尾叉長 43cm 前後の 6 歳魚（2015 年級）主体
- ◎留萌沖では尾叉長 20cm 前後の 1 歳魚（2020 年級）や尾叉長 20cm 台後半の 2，3 歳魚（2018，2019 年級）主体

1. 調査概要

2021年10月13日～27日に道西日本海の図1に示した海域において、稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により、計量魚群探知機と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました（トロール地点1，2，4は欠測）。

2. 魚探反応量

強い魚探反応が見られたラインの魚探画像を図2に、魚探反応量NASCの分布を図3に示します。今年度の調査では、利尻・礼文西（ラインA）と武蔵堆西（ラインC沖）、雄冬岬沖（ラインG）、島牧沖（ラインM）で強い反応が見られました。

海域別の反応量は、宗谷・留萌海域で前年比 1.27，石狩・後志海域で前年比 0.98，檜山・渡島海域で前年比 0.90 であり、全体では前年比 1.10 でした（魚探反応量は暫定値）。

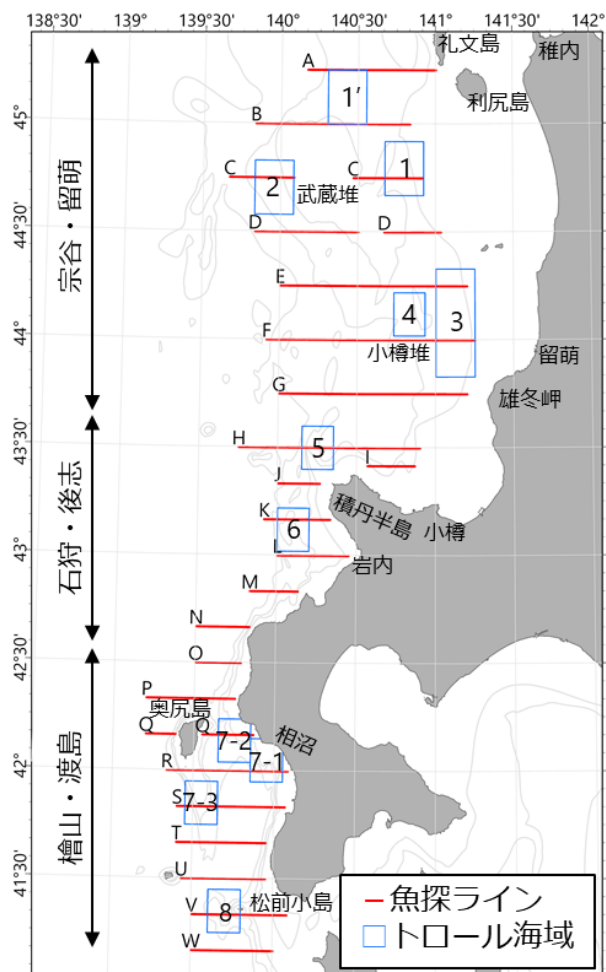


図1. 調査海域予定図

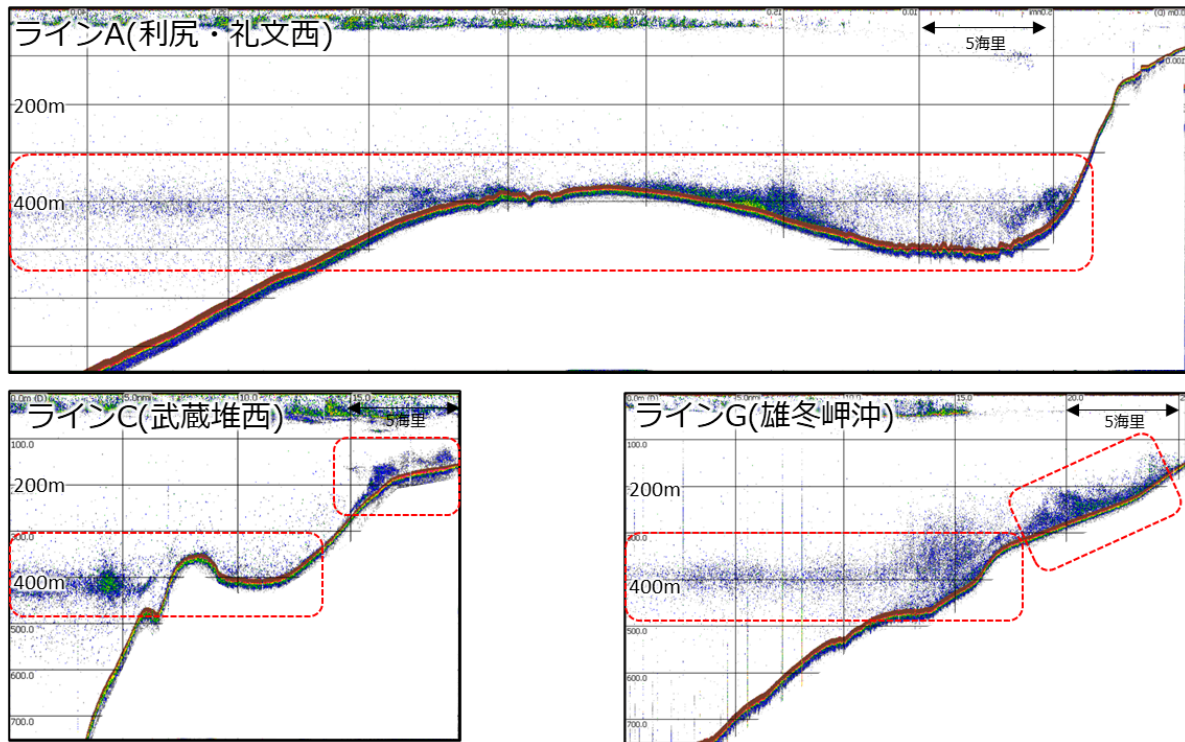


図 2. 強い魚探反応が見られたラインにおける魚探画像（エコーグラム）。
赤点線枠内はスケトウダラ魚群と見られる反応。各画像の右側が沿岸側。

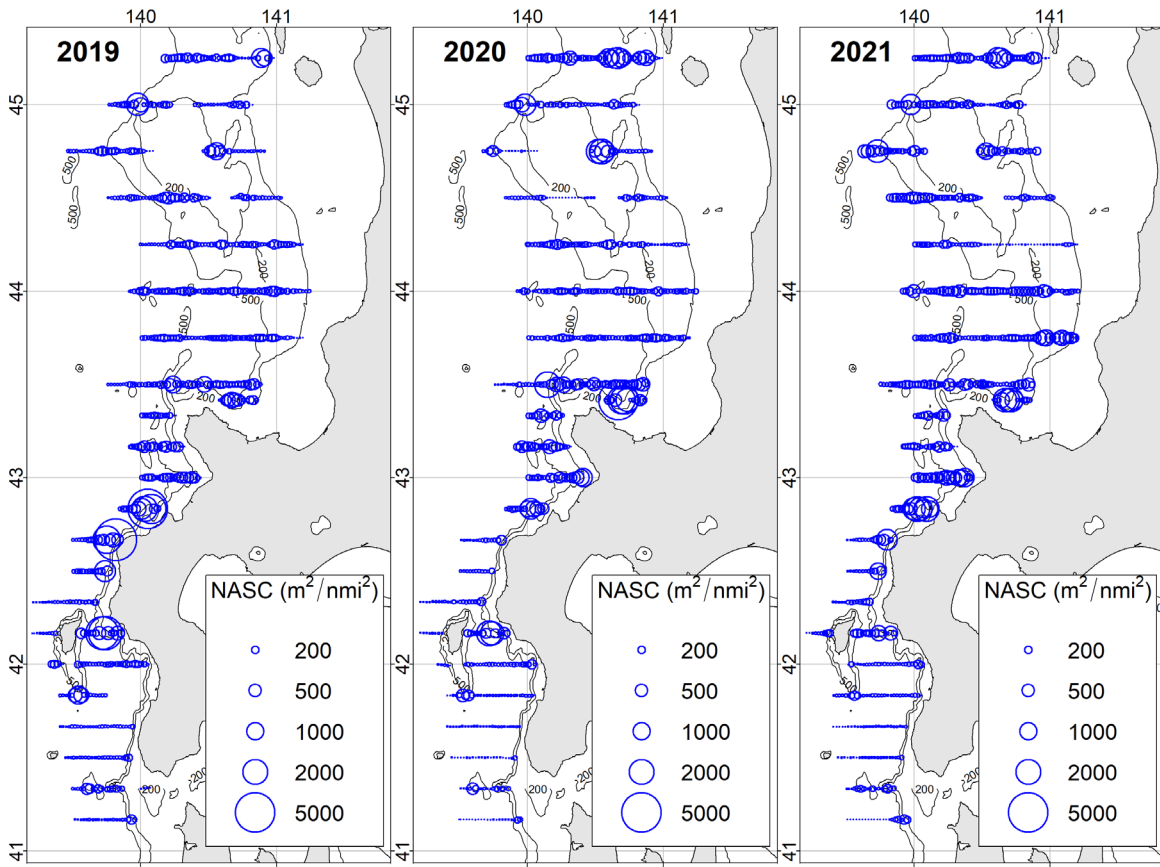


図 3. 魚探反応量 NASC の分布。

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる。

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図4に示します。利尻・礼文島周辺海域(トロール海域 1')では尾叉長 40cm 前後の 5 歳魚(2016 年級)と思われる個体が主体でした。

積丹～檜山海域(トロール海域 5～7)では尾叉長 40cm 前後の 5 歳魚(2016 年級)と 43cm 前後の 6 歳魚(2015 年級)と思われる成魚が主体でした。留萌沖(トロール海域 3)の海底深度 300m 以浅(図 4-3a)では尾叉長 20cm 前後の 1 歳魚(2020 年級)、海底深度 300m 以深(図 4-3b)では尾叉長 20cm 台後半の 2, 3 歳魚(2018, 2019 年級)と思われる未成魚が多く見られました。

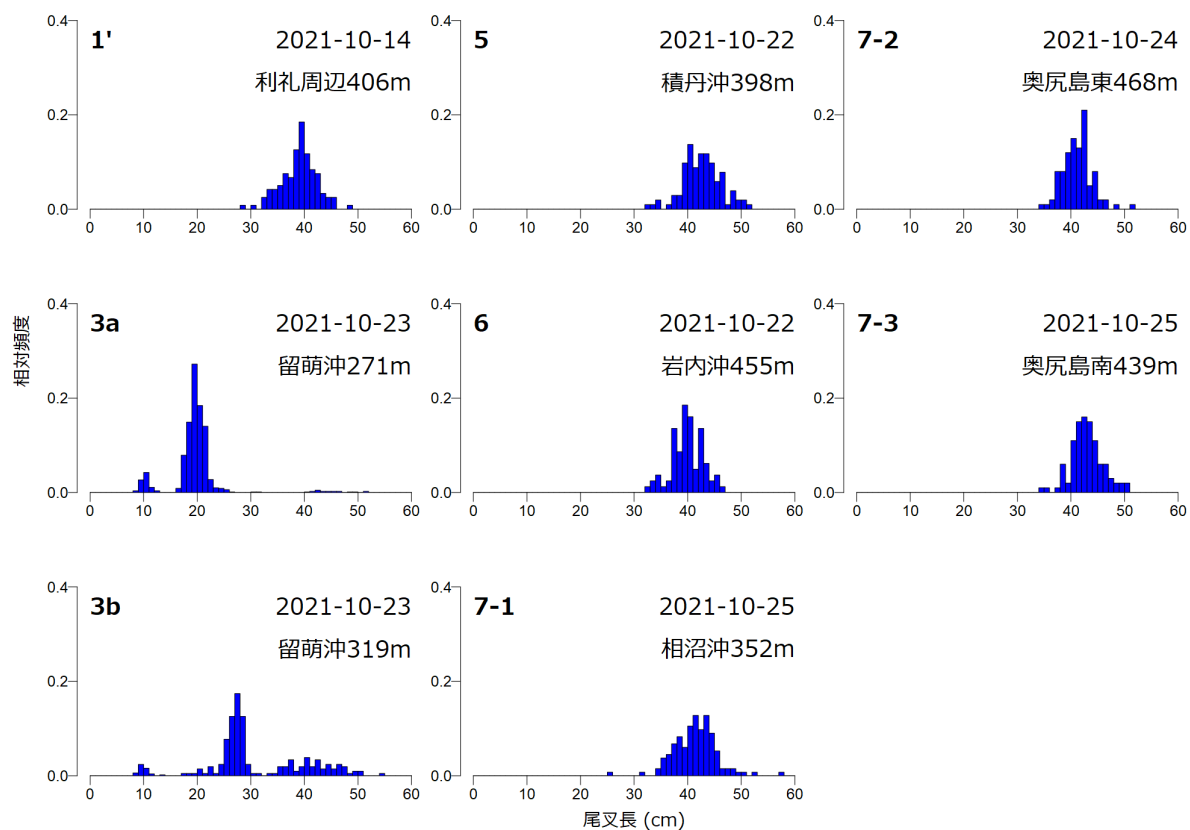


図4. スケトウダラの尾叉長組成 (2021年10月道西日本海).
1のトロール海域番号と対応.